

平成26年7月20日(日)

岩手日

桜ライン活動に共感

陸前高田市の津波到達点に桜を植える活動を展開しているNPO法人桜ライン311（日本海震代表）が題材にして「キュメンタリー映画『あの街に桜が咲けば』の上映会実行委主催）は19日、盛岡市由4丁目の上田公民館で開かれた。東日本大震災の教訓を後世に伝えるため、1万4千本の「桜ライン」をつくる活動に寄贈した作品に、園登約20人が感動と激励の拍手を送った。

盛岡で記録映画上映会

映画は3年4ヵ月前（2012年1月から）の「あの日」の映像がなほ大切な人を災害から守り、活動に取りかかれますか」と日本海震代表（21）・陸前高田市在住・や仲間さを訴えている。の思い、戸羽太市長や防災専門家らのインク

震災の教訓 後世に 小川監督ら訴える

震災を教訓に、日ごろの防災意識の大さを訴える小川光一さん



1で活動している東京都立川市在住の映像ジャーナリスト小川光一さんは自身が（27）。映画には自分が「桜を植えたい」と願う誰もが250人以上は全体の3%程度。次に開いた「街中インター」も盛り込み、ビューアーも盛り込み、高田を桜の名所にしたいと叫んでいた彼にもかかわらず、災害への認識や備えが不足している現状を示した。上映後の講演で、小川さんは「震災が後世に残る」と痛いを込めた。上映会は「あの日」へ世代に引き継ぎ、陸前高田を桜の名所にしたい」と語った。今年3月の上映後は、小川さんは「震災が後世に残る」と語った。



桜ライン311が題材にして「キュメンタリー映画『あの街に桜が咲けば』を鑑賞する観客

への教訓として十分伝わっていない。その連鎖を断ち切るため、興味のない人に働き掛けるなど、できる限りこれからはじめてほしい」と一人一人に呼び掛けた。

小川さんは対談した

上映会は「あの日」へ世代に引き継ぎ、陸前高田を桜の名所にしたい

全国上映プロジェクターの一環で、今年3月の上映後は、小川さんは「震災が後世に残る」と語った。